

【令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について】

令和5年11月11日
練馬区立開進第二小学校

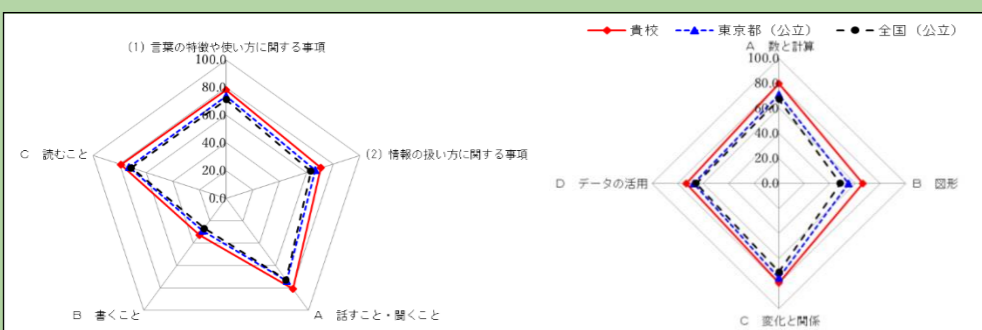
令和5年4月18日に実施した全国学力・学習状況調査では、2教科（国語・算数）すべてにおいて東京都の平均正答率を大きく上回る結果となった。全体の傾向として、学習指導要領の内容について偏りがなく全体的に正答率が高くなっている。2教科とも2極化傾向にある。低位層の傾向として、国語は選択して回答する問題、算数は記述して回答する問題について、授業の中で改善していく必要がある。

【各教科の平均正答率(昨年度)】 (参加児童数:64名)単位:%

	国語	算数
開二小	75 (75)	75 (74)
東京都 (公立)	69 (69)	67 (67)
全国 (公立)	67.2 (65.2)	62.5 (63.2)

参考：国語＝秋田・石川72%、算数＝東京・石川67%

【学習指導要領の平均正答率の状況】

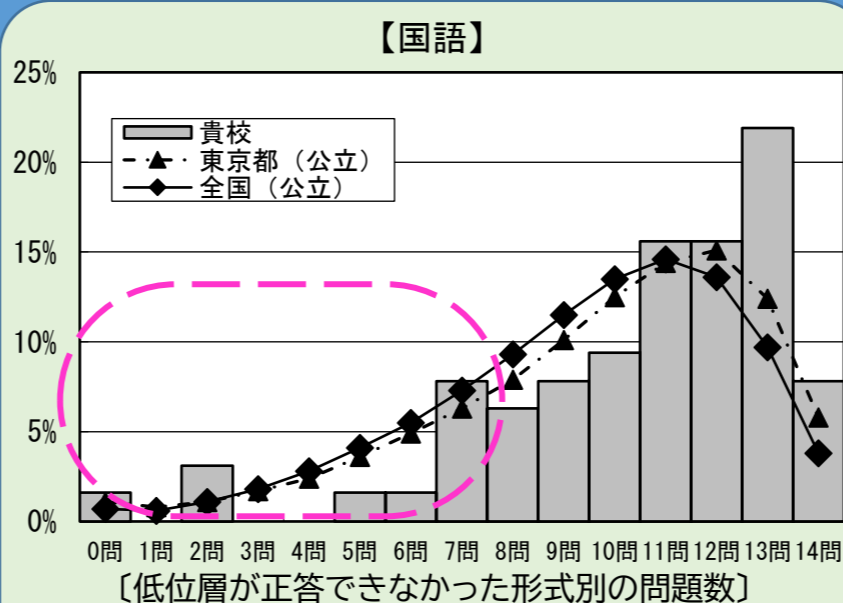


【国語】	区分	開二小	東京都	全国
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	78.1	73.6	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	71.1	66.5	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	—	—	—
思考力、判断力、表現力	A 話すこと・聞くこと	80.7	73.5	72.6
	B 書くこと	32.8	28.9	26.7
	C 読むこと	79.2	73.2	71.2

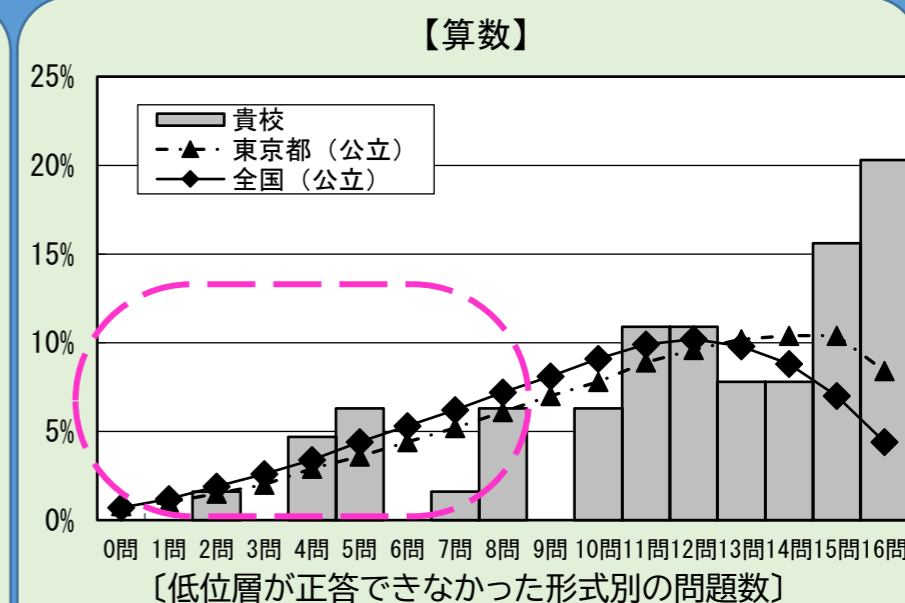
【算数】	区分	開二小	東京都	全国
領域	A 数と計算	79.7	71.0	67.3
	B 図形	66.0	54.8	48.2
	C 測定	—	—	—
	C 変化と関係	79.3	75.8	70.9
	D データの活用	73.4	67.3	65.5

国語の内容や算数の領域別の平均正答率については、どの区分においても東京都や全国より高くなっている。偏りなく全体的に正答率が高いことから、学習内容や学習活動を行ったことが確実に定着している。また、授業においても様々な活動や取組がバランスよく行われている。

【正答数分布グラフと低位層(正答率50%以下の児童)の問題形式との分析】

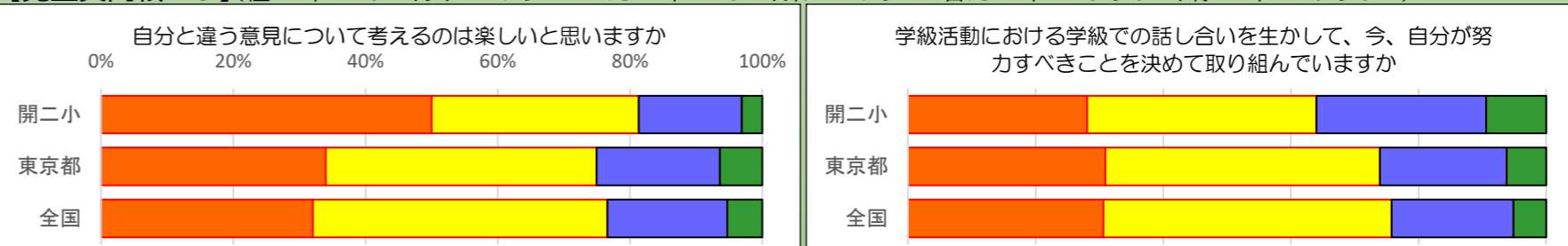


国語の低位層の児童は、どの問題形式についても半数に近い数字で正答できていない。その中で、選択式の回答の3問の無回答率が東京都や全国より上回っている。自分の考えに自信をもてていない可能性が考えられる。授業において、間違えてもこれから改善すればよいと前向きに考える児童が増やしていく。



算数の低位層の児童は、記述式の問題形式が正答できていない。「求め方と答え」「選んだ理由」等を書く問題ができるようにする必要がある。授業においては、多様な考え方を引き出す学習が進んでいるが、書き表す活動は少ない。また、書いて終わりではなくわかりやすいか確認させていく授業を増やしていく。

【児童質問紙から】(橙=当てはまる、黄=どちらかといえば当てはまる、紫=どちらかといえば当てはまらない、緑=当てはまらない)



話し合うことが楽しいと思う児童が多いが、話し合ったことを生かしていこうという意欲を高める必要がある。